通級による指導　実践事例

年間指導目標	・場や状況に応じた声の大きさで話すことができる。 ・一方的に話さずに、順番に話して会話をすることができる。			
対象児童生徒の状況	学年	小学校２年生	指導時期	４月～
	・場や状況に合わない大きさの声を出してしまう。 ・自分の気持ちを抑制できずに行動してしまう時があり、そのことを自覚できていない。 ・相手の気持ちや自分が周りからどう思われているのかを想像できない。 ・自分が話したい話を一方的にしてしまう。			
関連する自立活動の内容	区分	内容		
	人間関係の形成	（２）他者の意図や感情の理解に関すること		
	人間関係の形成	（３）自己の理解と行動の調整に関すること		
	人間関係の形成	（４）集団への参加の基礎に関すること		
	コミュニケーション	（５）状況に応じたコミュニケーションに関すること		
本事例のキーワード	声の大きさ　会話			

指導の具体的な様子

題材名	場や状況に応じた声の大きさや会話のやり取りの指導	
題材目標	（１）それぞれの活動に適した声の大きさで話そう （２）会話をする時に交互に話そう	
学習内容	指導・支援と留意点	備考・評価
（１）あいさつ	○あいさつをする ・今日の活動の流れとめあてを確認する。 ・「声のものさし表」を見て、それぞれの声の大きさを確認する。	
（２）コグトレプリント	○集中力を鍛えるコグトレプリントをする ・声の大きさは「０」であることを確認する。 ・声の大きさが「０」だと集中しやすいことや結果がよくなりやすいことを確認する。	・声の大きさ「０」 ・コグトレプリント
（３）行動のふりかえり 「声のものさし表」（特別支援教育「すぐに使える！プリント＋ビデオクリップ」よりダウンロード）	○日常生活でのふりかえりをする ・声の大きさは「１」であることを確認する。 ・通常学級での様子を担任に聞いておき、言動のふりかえりをさせる。自覚できていなかった時は担任から見た様子を伝え、自分の言動を自覚させる。 ・通常学級担任と連携を取り、学校や学級のきまりやルールを一貫して指導する。 ・自分の言動に対しての自分や相手の気持ち、どうするべきだったのかを考えさせる。	・声の大きさ「１」 ・ワークシート ・児童の発言
（４）声の大きさゲーム 	○サイコロで出た目の声の大きさでセリフを言う ・声の大きさは、サイコロの目の数によることを確認する。 ・セリフカードは、いくつもの状況に合わせて種類別にしておき、本人に選ばせて活動への意欲を高めさせる。 ・本児と教師が交互に行い、セリフの声の大きさに対してお互いに評価とアドバイスをし合う。	・声の大きさ「サイコロの目の数」 ・本児が教師に対して評価とアドバイスができたか
（５）こころかるた 〔製作・販売：㈱クリエーションアカデミー、商品名：こころかるた(子ども向け)〕	○かるたを引いてお題に対する答えを言う ・声の大きさは、話し手は「１」聞き手は「０」であることを確認する。 ・話し手が話している間は聞き手は話に割り込んではいけないルールにして話す順番を意識させる。 ・話の終わった合図としてベルを鳴らす。	・声の大きさ「１」 ・話に割り込んでいないか ・順番に話すことができたか
（６）ふりかえり	○今日の活動の中で良かったところを確認する。 ・ふりかえり表に、声の大きさを守れたかと会話の順番を守れたかについて◎、○、△を貼る。	・ふりかえり表
（７）あいさつ	○あいさつ ・次回の予告をする。	

指導の成果（児童生徒の変容・通常学級での様子など）

・通常学級の本児の机上に「声のものさし表」を貼ったことで、通級でも通常学級でも同じ指導ができるようになった。静かにしなければいけない場面で声を出したり声が大きすぎたりした時に、担任が机上の「声のものさし表」を指さすと、自分が声を出していたことや声が大きすぎたことを自覚し意識できるようになってきた。
・声の大きさへの意識が強くなり、「○○の活動の時は声の大きさは○にしよう。」と提案するようになった。
・会話をする時に順番を意識するようになった。今までは、相手の話を無視して自分の話ばかりをしていたが、相手の話を最後まで聞けるようになってきたので、相手の話を広げたり自分の経験と結び付けたりして返事をするようになってきた。